

## つつが虫病 Tsutsugamushi disease, scrub typhus

つつが虫病は、*Orientia tsutsugamushi*（以下、*O. tsutsugamushi*）というリケッチアを保有しているツツガムシ（ダニの1種）が、ヒトを刺咬することにより感染が起こります。刺咬するのは幼虫のみで、その体長は0.2～0.4mmと大変小さいので、患者はそれに気づかないようです。刺咬はこの幼虫の活動期間に起こり、地方によって時期が異なります。埼玉県では4月と5月（春）、11月と12月（秋～冬）であり、11月に最も多く患者が発生しています。

全国では1982年～2001年の期間には、年間400～900人も発生していましたが、近年はやや減少しています。一方、埼玉県内の患者数は同期間において年間0～4人と、近隣都県と比較して著しく少ない傾向が続いています。

潜伏期は1～2週間で、臨床症状は発疹、発熱および刺し口は主要3徴候と言われ、刺し口の近傍のリンパ節が腫脹し圧痛を認めることがあります。刺し口は次第に黒褐色の痂皮で覆われ特徴的な所見ですが、陰部、腋窩など見つけにくい部位が多いようです。

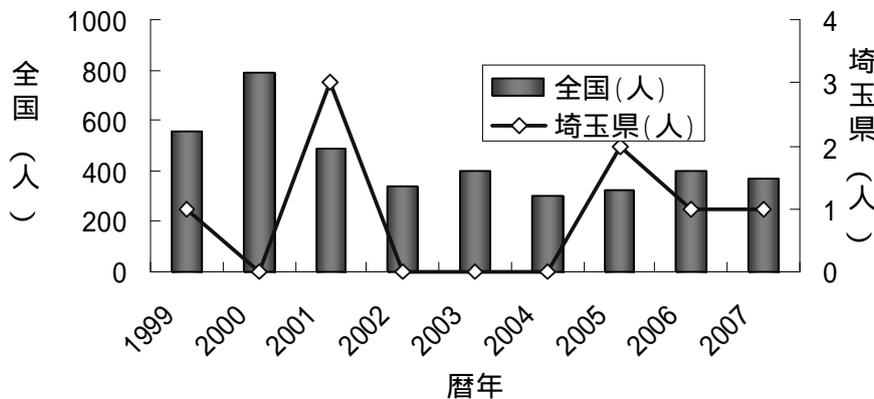


図 つつが虫病患者の発生状況(全国および埼玉県)

つつが虫病はテトラサイクリン系抗菌剤あるいはクロラムフェニコールによって、速やかに治療を開始しないと、DIC(播種性血管内凝固症候群)を起こし、死亡する可能性があります。埼玉県における死亡例は、1985年と1990年に1例ずつ起こっています。

患者は農作業および森林作業に従事している人が多いですが、山菜・山芋とり、レジャーで感染した例もあります。特に流行地では、それぞれの流行時期に虫除けスプレーを使用するなど、ダニの吸着に注意を払うことが予防につながります。

疑いのある患者さんがいる場合は、衛生研究所にご相談ください。